学　界　消　息

1.　第2回東南アジア水文セミナーの開催

東南アジアの第2回水文セミナー，正式には「水文および水理気象において用いられている観測法と測器に関する第2回 ECAFE/WMO 地域間水文セミナー」が WMO とエカフェ（ECAFE）との共催で，1961年末，ニューデリーで開催される．第1回東南アジア水文セミナーは1959年バンコックで開かれ，川畑気象庁観測部長が参加された．

2.　高松地方気象台の新庁舎落成

高松地方気象台では長い間，観測課と，総務，予報，通信の諸課とが 4km ほど離れて仕事をしていたが，1960年3月末，伏石町に鉄筋コンクリート2階立の新庁舎が落成し，全課を収容できるようになった．

3.　長風丸進水

全長42m，巾7.35m，深さ3.75m，250トン，500馬力，航海速力10ノットの新観測船〝長風丸〟の進水式が3月29日石川島重工で行われた．

4.　関原氏米国に出張

本会会員，気象研究所高層気象研究部第2研究室長の関原彊氏は4月15日～22日に米国カリフォルニア大学レークアロヘッド会議場で開催される国際会議「太陽活動と気象現象」に出席するため，4月10日から25日まで出張された．

5.　気象学および大気物理学のヘルシンキ大会が開かれる

1960年7月25日から8月6日にわたって，フィンランドのヘルシンキで，気象学および大気物理学についての国際会議（IAMAP）が開催される予定である。

6.　大気化学および大気放射能に関するシンポジウムが開かれる

ヘルシンキ大会において8月2日—3日には，大気化学および大気放射能についてのシンポジウムが開かれる。割り当てられた時間を有効に使い，議論を活潑にするために，気象学・地球物理学上とくに重要で興味のあるいくつかの話題にしぼって議論する．予定表はつぎのとおり．

Session　1．成層圏の大気化学および循環
〃　　2．大気中のトリチウム，ジューテリウム，酸素の18/16比および水の循環
〃　　3．対流圏の大気化学および wash-out.
〃　　4．大気および海洋中の CO_2 および C^{14}.

Session 1.—3.に関する論文を募集しているので，希望の方は送って下さい．宛先は

Dr. C.E. Junge
Geophysics Research Directorate
Air Force Cambridge Research Center
L.G. Hanscom Field
Bedford, Massachusetts, USA

7.　電波気象学連絡委員会（仮訳）の誕生

IUGG (The International Union of Geodesy and Geophysics) と URSI (The International Scientific Radio Union との間で，Inter-Union Committee on Radio Meteorology を作ることに話がきまった．この委員会は電波伝播に影響を与える気象分野の研究を促進し，無線技術の気象学への応用を助長することを目的とするもので，前の Joint committee on Radio Meteorology の後を継ぐものである．委員は IUGG から6名，URSI から6名，合せて12名で，少なくとも3年に1回は大会を開くことになっている．

理　事　会　便　り

第23回常任理事会議事録

日　時　　昭和35年3月5日 10.00～14.00
場　所　　神田一ツ橋　学士会館
出席者　　正野，吉武，岸保，今井，畠山，磯野，根本，神山，淵各理事（順序不同）
決　議

1.　大会委員長は大谷東平氏にお願いすることとなった．
2.　大会の大気汚染シンポジウムの話題提供者として，京大　庄司光氏にお願いすることとなった．
3.　数値予報国際シンポジウムの終った後の分科会に

ついては今井理事がまとめて案をつくることとなった。

4. 藤原賞設置については，吉武，淵　両理事が案をつくることとなった。

5. 朝日科学奨励金に関し各支部長あて候補者推せん方をお願いすることとなった。

6. 朝日科学奨励金等のすいせんにはどんな方法でやったらよいか，磯野，神山，淵　三理事で案をつくることとなった。

7. 5月30日から6月3日まで5日間開かれる日本学術会議南極特別委員会主催の南極観測シンポジウムに関し，共催として協力し，「天気」に掲載してその開催を会員に周知することとなった。

8. 前記シンポジウムにおける気象部門の総会報告講演者として川畑幸夫氏を推せんすることとなった。

9. 電波科学研究連絡委員会から依頼予定の1963年東京で開かれるURSI総会に関し当学会も協力することとなった。

10. 海洋学用語選定原案（第2次案）に関し検討方を用語委員会にお願いすることとなった。

第24回常任理事会議事録

日　時　　昭和35年4月2日　1000～1400
場　所　　神田一ツ橋　学士会館
出席者　　伊東・岸保・吉武・畠山・神山・今井・根本・淵　各理事・伊藤選挙管理委員長（順序不同）

決　議

1. 春季大会の座長を次のようにお願いすることとなった。

	第1会場	第2会場
5月12日午前	滑川　忠夫	堀内　剛二
午後	高橋浩一郎	石井　千尋
	間野　　浩	三宅　泰雄
13日午前	正野　重方	孫野　長治
午後	荒川　秀俊	磯野　謙治
14日午前	藤井　義之	伊東　曜自

2. 数値予報国際シンポジウムの開催に関し準備委員会（第15回常任理事会決議 34. 7. 11）を作って着々準備を進めてきたが，今回下記のとおり組織委員会と実行委員会を編成しておしすすめることとなった。

組織委員会（委員長　畠山久尙）
畠山　久尙（日本気象学会理事長）
和達　清夫（日本学術会議会長・気象庁長官）
正野　重方（東大教授・実行委員会委員長）
肥沼　寛一（気象庁予報部長）
小平　　吉男（気象研究所長）
有田　　毅（気象庁総務部長）

組織委員会のもとに次の実行委員会をおく。
実行委員会（委員長　正野重方）
委員会には次の部会をおく。

(1) 外国関係（正野）・毛利・須田
接待関係（伊藤博）・和田・益子
講演企画（正野）・岸保・斎藤直・窪田・松本・都田
会　　計（吉武）・益子・鈴木徹
広　　報（伊藤博）・岸保・鍋島
会　　場（淵）・北田・益子
記　　録（新田）・都田
出版関係（桜庭）
（　）印は各部会主任

3. 9月国際生気候学会で計画している「人工気候室」シンポジウムを，建築学会，衛生学会と協力して催すこととなった。

国際数値予報シンポジウム便り (I)

1. 会場は日本都市センター（東京都千代田区平河町2丁目）に決定した。

2. 参加申込状況

招待者86名の内4月15日現在46名から返事があり参加予定者は次の33名（その内5名は参加希望の意志を表明しているが未確定：*印）である。このほかソ連等からも若干名参加するもようである。

アメリカ

G. Árnason	L. Berkofsky	H. A. Bedient
J. G. Charney	M. A. Estoque	R. D. Fletcher
T. Fujita	*W. L. Gates	M. M. Holl
A. Kasahara	E. N. Lorentz	D. E. Martin
Y. Mintz	*G. Morikawa	*W. D. Mount
Y. Ogura	R. L. Pfeffer	G. W. Platzman
Y. Sasaki	*R. Shapiro	F. G. Shuman
J. Smagorinsky	J. Spar	H. Wexler
P. M. Wolff	M. G. Wurtele	S. Manabe

ドイツ

K. Hinkelmann	H. Reiser	F. Wippermann

スウェーデン

B. Bolin　B. R. Döös

ノールウェイ

R. Fjørtoft

ベルギー

J. van Isacker

3. 本年3月に従来の準備委員会を組織委員会と実行委員会にくみかえ，実施の具体的な諸準備に入った。